

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゅ〜す
<https://japan.otakaranews.com>

じゃぱんお宝にゅ〜す

モノづくり現場の未来を見つめる
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！

IDS: 業界予測を上回る2023年売上高達成

明確な市場志向と将来を見据えた協力関係で業績アップ 更なる業績拡大に向け、米国・アジア市場へ新製品投入

予測を上回る 売上高を達成

産業用カメラメーカーのアイ・ディー・エス(IDS Imaging Development Systems GmbH、以下=IDS)は、2023年売上高で業界予測を上回る前年比15%増を達成した。

好調な業績の背景には新製品開発、未来志向の協力関係、サプライチェーンの緩和による良好な納期実績が要因となっており、豊富な部品在庫で幅広い市場ニーズに応える製品群を短納期で供給している。

これとは対照的にドイツ機械工業連盟(VDMA)は、2023年第1〜3四半期のドイツのマシンビジョンコンポーネントメーカーの売上高は名目11%減少し、受注が急減すると予測していた。しかし、IDSは、業界他社と比較して好業績を収め、特にDACH地域における売上は平均を超える増加率を達成した。

新たな製品開発

一方IDSは、半導体不足による混乱後の米国とアジア市場には、さらに大きな可能性があるとの分析。米国やアジア市場における更なるシェア拡大を目



ざし、新製品の開発投入が決定的な役割を果たすと考えている。それを見越して同社は昨年、Ensenso Cを急成長する3Dセグメントに投入。今後、さらに多くのカメラを投入する。

uEye+2Dカメラシリーズには、新しいセンサーの統合など、数多くのモデル改良が予定されている。

IDS業務執行取締役のJan Hartmann氏は、「これにより、お客様にとって、エントリーレベルから10GigEカメラシリーズまで、選択肢がさらに広がります。同時にIDS peak SDKも継続的に改善していきます。このために、2024年にかけていくつかの無償ソフトウェアアップデートを予定しています」と述べている。

AIセグメントにおけるIDS NXTプラットフォームも新しいモデルの導入によって拡張を予定している。同時にIDS NXT malibuの機能拡充も計画している。malibuはライブビデオストリーム内

でAIオーバーレイを実現した最初の産業用カメラ。これはAmbarella SoC(システムオンチップ)の統合によって実現されている。これに加えて、Fraunhoferから独立したDENKweit GmbHとのAIベースの画像分析に関するパートナーシップにより、将来的なテクノロジーの開発が加速される。

同社は今年初めから、ドイツのハイブルボン近郊に設立されたイノベーション促進エコシステムであるイノベーションパーク人工知能(IPAI)のメンバーにもなっている。

時代の要請に応える 新たな経営陣に刷新

同社は、年初に創業者でパートナーのJürgen Hartmann氏が事業運営を引き継いで最高イノベーション責任者となり、テクノロジーおよびイノベーションの分野で助言する。さらにMichael Berger博士が経営陣に加わり、オーバーズルムを拠点とする画像処理スペシャリストにおける世代交代が完了した。「ともに成長して世界を変革」をモットーとするMichael Berger博士は、「革新的で高品質の産業用カメラソリューションで、お客様の要望を先取りしたい」と強調する。

卓越したインハウス製品 バリエーションによる 製品品質を確保

IDSは地域に根ざし、ドイツ・オーバーズルムの開発、生産拠点に常に投資を継続する。

「非常に高い社内生産率により、「メイド・イン・ドイツ」の高い製品品質を保証しています。社内生産と品質保証のためのハイエンドの特殊機械への定期的な投資がこれを確実なものにしています」と、業務執行取締役のAlexander Lewinsky氏は話す。

同社は最近、本社敷地内に独自のEMC測定キャビンを建設した。これにより、今後は新しい開発の電磁気適合



性を社内でテストする。外部の試験所に頼らないことで、開発サイクルの短縮にもつながる。

インハウスのB2Bマーケットプレイスvisionpierも、貴重な開発時間の短縮に貢献する。提供されるソリューションパッケージは、ハードウェア、ソフトウェア、シームレスな統合を既存のプロセスに組み合わせている。このため、先駆的なテクノロジーにアクセスしやすくなる。

「visionpierのおかげで、さまざまな業界やあらゆる規模の企業から画像処理ソリューションへの需要が増えています」と、IDSのビジネスイノベーションおよびエコシステム担当のSigrid Rögner氏は説明する。

現在マーケットプレイスには120を超えるソリューションがあり、カスタマイズして個々の課題に対応する。

2024年にはユーザー操作性のさらなる向上や製品拡張に重点を置く。

IDSは、顧客のメリットを大切に作る製品により、明確な市場の方向性を重視している。

同時に、持続可能性の問題にも常に注目している。気候変動対策に積極的な同社は、今後オーバーズルム工場でのCO₂排出量削減に加え、包装資材などもさらに精査していく計画だ。

■アイ・ディー・エス株式会社
〒108-0073
東京都港区三田1丁目3-33 三田ネクサスビル3階、
TEL03-4500-8864

(※資料提供：アイ・ディー・エス)

